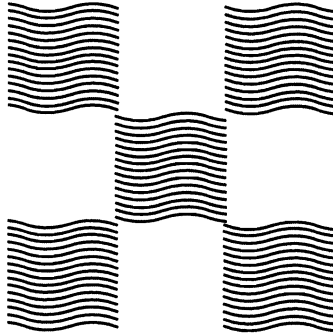


同志社社会学研究

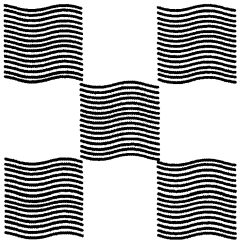
「創刊号」



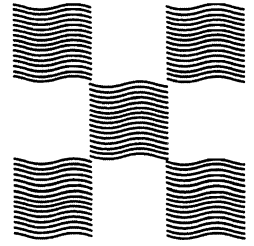
1997年3月

- | | |
|-------------------------------------------------|---------|
| ●創刊のこたば | 三 沢 謙 一 |
| ●研究論文 | |
| 開かれた家族
—ユージン・リトウォクにおける家族と社会— | 天木志保美 |
| 日本における韓国に関する社会学的研究 | 服 部 民 夫 |
| 「ストーリーの社会学」の可能性
—個人的な経験のナラティブからの出発— | 小林多寿子 |
| 地方分権時代における住民参画の新たな動向 | 伊 藤 敏 安 |
| 韓国サーカスにおける「家族」
—移動集団の構造と戦略— | 林 史 樹 |
| カルチュラル・スタディーズと「意味作用の政治学」 | 栗 谷 佳 司 |
| セミプロフェッションの知識取得とコミュニケーション
—ソフトウェア技術者の場合— | 藤 本 昌 代 |
| 若年層の家族意識の変化
—韓国と日本の大学生に対するアンケート調査を中心として— | 金 香 男 |
| 自然と地域社会に関する社会学的研究
—地域社会における森林の共生と森林支配に関する研究— | 栗 本 修 滋 |
| 住民運動とオルターナティブな生活構築
—対抗的分業の視点から— | 杉本久未子 |
| ●書評論文（ダニエル・ベル『資本主義の文化的矛盾』を読む） | |
| ダニエル・ベルと消費社会をめぐる論考 | 小林大祐 |
| 政治・経済・文化という3つの領域 | 中 嶋 通 博 |
| 公共家族の公共性をめぐって
—コミュニケーション的過程という「形式」— | 奥 村 隆 宏 |

同志社社会学研究学会



ISSN 1342-9833



Doshisha Review of Sociology

No.1 March 1997

CONTENTS

● PREFACE

MISAWA Ken'ichi

● ARTICLES

Family Opened to Society

-Family and Society in Eugene Litwak's Theory-

AMAKI Shihomi

Korean Studies from a Sociological View in Japan;1985-95

-An Incomplete Overview-

HATTORI Tamio

On Plummer's 'Sociology of Stories'

KOBAYASHI Tazuko

Decentralization and Participation in the Japanese Local Community

ITO Toshiyasu

Circus as a 'Family'

-Structure and Strategy of Traveling Group, The Case of D Circus, Korea-

HAYASHI Fumiki

Cultural Studies and 'Politics of Signification'

AWATANI Yoshiji

Semi-Professional's Knowledge Acquisition through Communications

-A Case Study of Software Engineers-

FUJIMOTO Masayo

Changing Family Consciousness Among University Students in Korea and Japan

KIM Hyang Nam

Forest, Mountain and Village Community: A Sociological Analysis

KURIMOTO Shuji

What Type of Alternative Life is Possible by Social Movement ?

-In View of Cooperative Problem Solving by Opposing Actors-

SUGIMOTO Kumiko

● REVIEW ARTICLES: On Bell's '*The Cultural Contradictions of Capitalism*'

An Essay on Bell and Consumptive Society

KOBAYASHI Daisuke

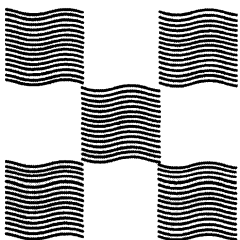
Three Distinct Realms: Polity, Economy and Culture

NAKAJIMA Michihiro

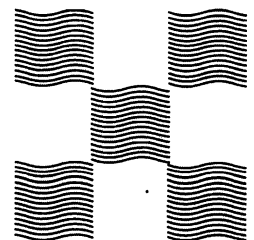
On Public Nature of the Public Household

-What You Need is the FORM of Communication Process-

OKUMURA Takahiro



Doshisha Sociological Association



創刊のことば

同志社社会学研究学会 会長
三 沢 謙 一

4年前の1993年、同志社大学の大学院に社会学専攻の修士課程が設けられ、さらに今年4月からは博士後期課程も開設の運びとなった。長い伝統をもつ同志社の社会学教室は、こうして研究者養成の機関として、新たな第1歩を踏み出すことになった。

私ども大学院社会学専攻の教員、院生そして卒業生は、この機会に、互いに切磋琢磨しあいながら研究活動を前進させるために、「同志社社会学研究学会」を発足させ、そして、その研究活動の成果を発表するため、ここに研究誌を刊行することにした。この『同志社社会学研究』は、院生にとってはその勉学・研究活動の励みとなり、卒業生や教員にとってもその研究教育活動に裨益する、そのような場でありたい。

顧みれば、研究誌刊行までの道のりは長かった。同志社社会学の歴史は古く、明治中期の日本社会学の黎明期にまで溯るが、その戦前の伝統を継いで戦後に文学部社会学科社会学専攻が設置されてからでも、半世紀近く経つ。本来ならば、社会学専攻の大学院はずっと前につくられてしかるべきであった。そして事実、関係の先生方がそのために尽力されたのであるが、学生急増に伴う大学の校地不足問題などのために、先人たちの努力はついに実を結ばなかったのである。

4年前ようやく修士課程ができたときは、教員スタッフの中心に故松本通晴教授がおられた。私どもは松本先生と専攻の将来についての夢を語り合った。博士課程を設けて同志社でも研究者養成ができるようにしたいというのが、先生の悲願であり、私どもの共通の願いであった。研究誌の刊行という企画も先生の提案から生まれたものであった。しかし、松本先生は翌94年に夢の実現を見ぬまま急逝してしまわれた。それからは、残された者たちが先生の遺志を継いでひたすら夢の実現をめざした結果、今日ようやく待望の博士課程の設置、研究学会の結成、そして研究誌の刊行にまで辿り着いた次第である。

この創刊号を、故松本教授のご霊前に謹んで捧げたい。また、これまで私どもがいろいろお世話になり、温かいご理解とご支援を賜わった大学内外の関係各位にも、この機会に心から感謝申しあげたいと思う。

同志社社会学研究

創刊号 NO.1, 1997

<目次>

●創刊のことば	三沢謙一	1
●研究論文		
開かれた家族 －ユージン・リトウォクにおける家族と社会－	天木志保美	5
日本における韓国に関する社会学的研究	服部民夫	19
「ストーリーの社会学」の可能性 －個人的な経験のナラティブからの出発－	小林多寿子	31
地方分権時代における住民参画の新たな動向	伊藤敏安	39
韓国サーカスにおける「家族」 －移動集団の構造と戦略－	林史樹	51
カルチュラル・スタディーズと「意味作用の政治学」	栗谷佳司	67
セミプロフェッションの知識取得とコミュニケーション －ソフトウェア技術者の場合－	藤本昌代	81
若年層の家族意識の変化 －韓国と日本の大学生に対するアンケート調査を中心として－	金香男	95
自然と地域社会に関する社会学的研究 －地域社会における森林の共生と森林支配に関する研究－	栗本修滋	111
住民運動とオルタナティブな生活構築 －対抗的分業の視点から－	杉本久未子	127
●書評論文（ダニエル・ベル「資本主義の文化的矛盾」を読む）		
ダニエル・ベルと消費社会をめぐる論考	小林大祐	141
政治・経済・文化という3つの領域	中嶋通博	149
公共家族の公共性をめぐって －コミュニケーション的過程という「形式」－	奥村隆宏	155
・研究室だより		162
・執筆者紹介		163
・編集後記		164